

# 旧耐震基準の木造住宅の除却における容易な耐震診断調査票

調査日時：令和 6年 6月 10日 午前・午後 10時  
 調査者：氏名 砂丘 太郎

調査を行った日時を記入してください。

調査を行った者の氏名を記入してください。

## 1 建築物の概要

- ア 建築物の所有者：砂丘 太郎
- イ 建築物の所在地：鳥取市幸町7-1
- ウ 階数：2

2項目の両方に該当する場合のみ診断の対象となります。

## 2 前提条件の確認（いずれも必須）

前提条件	チェック欄
木造住宅である	<input checked="" type="checkbox"/>
昭和56年5月31日以前に新築の工事に着手した	<input checked="" type="checkbox"/>

いずれにも該当しない場合は本診断の対象外となります。

## 3 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目（1以上ある場合は倒壊の危険性があると判断）

一見して倒壊の危険性があると判断できる項目		チェック欄
建物全体	全体又は一部に崩壊がある	
	全体又は一部に傾斜や変形がある	
地盤・基礎	地盤沈下が生じている	
	基礎がコンクリート以外（玉石、石積み、ブロック等）である	
	基礎がコンクリートであり、ひび割れや欠損が見られる	
老朽・腐朽	柱、梁、壁、土台等の構造部に白蟻の被害がある	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に腐朽が見られる	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に損傷や欠損が見られる	

該当する項目が1つ以上ある場合、倒壊の危険性があると判断します。この場合、4の記入は不要です。

一見して倒壊の危険性があると判断できる項目に1つ以上の該当がある場合は4の記入は不要です。

## 4 壁の割合

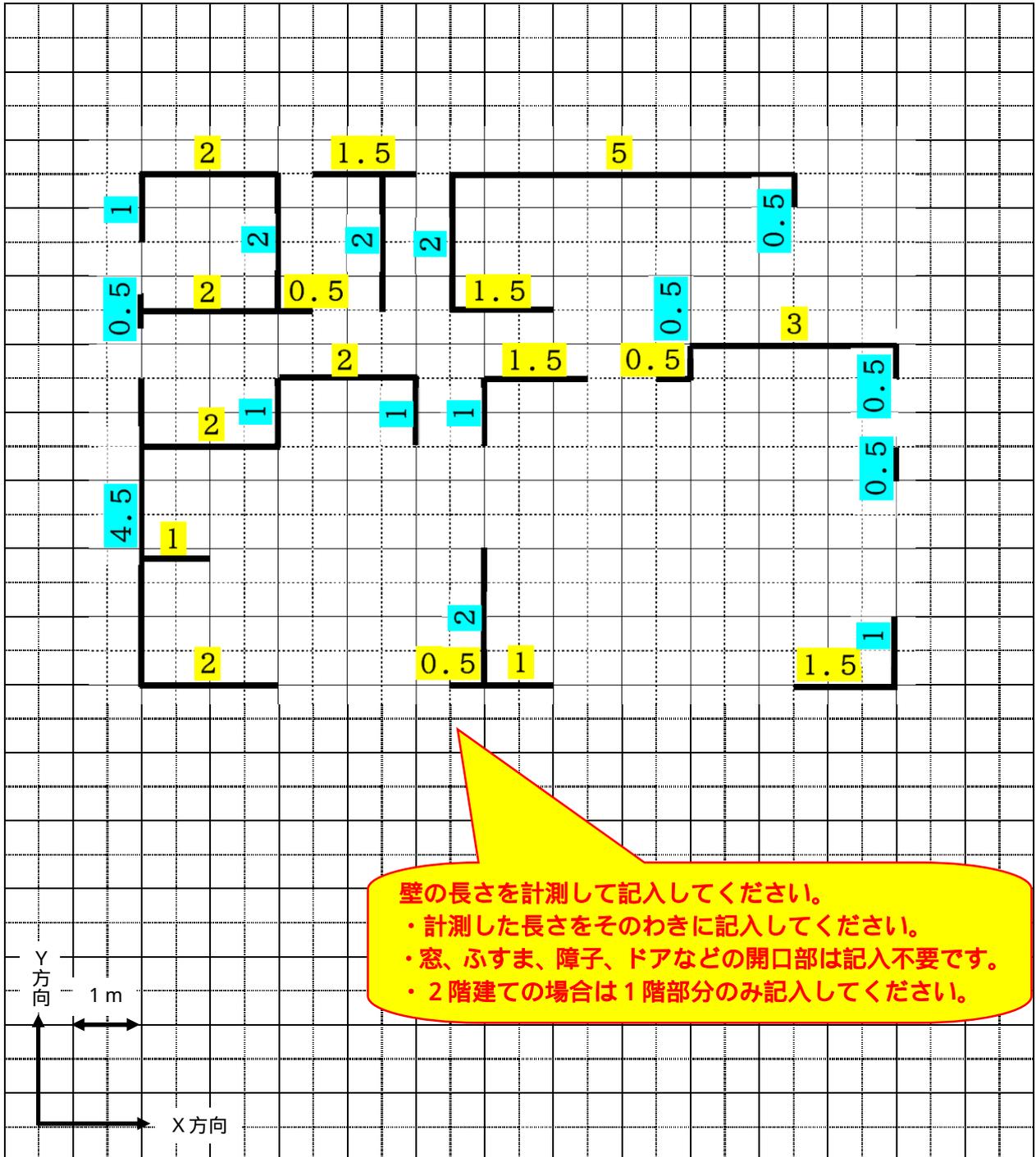
一見して倒壊の危険性があると判断できない場合でも、壁の割合が0.8未満である場合は、倒壊の危険性があると判断できるものとする。

方向	(ア) 壁の長さ(m)	(イ) 建面(m <sup>2</sup> )	(ウ) ア/イ	(エ) 必要値	(オ) 壁の割合 ウ/エ
X	27.5	75	0.36	0.52	0.69
Y	20	75	0.27	0.52	0.51

この計算は2階建て以下の住宅の場合に実施できます。3階建て以上の住宅で「3 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目」に該当がない場合は他の方法で診断してください。

#### 4 壁の割合（記入用紙）

##### 壁の長さの計測



2階建ての場合は1階の住宅内外の壁の長さを計測してください。壁を太線で記入し、それぞれの壁の長さをメートル単位としてそのわきに書き込んでください。窓・ふすま・障子・ドアなどの開口部分は記入不要です。

「わが家の耐震診断と補強方法」(監修 国土交通省 編集 財団法人日本建築防災協会 社会法人日本建築士連合会)の壁の割合の計算に基づく計算方法です。

ア 壁の長さの合計

X (横) 方向

27.5 m

Y (縦) 方向

20 m

のうち小さいほうを記入してください。

ア

20.0 m

イ 面積

イ

75 m<sup>2</sup>

ウ 単位面積あたりの壁の長さ

ア

20

÷

イ

75

=

ウ

0.27

エ 必要な壁の長さ

エ

0.52 m

下の表から該当するものを選んで記入してください。

屋根の種類	平屋	2階建て
軽い屋根(鉄板葺・石綿板葺・スレート葺等)	0.20	0.52
重い屋根(かや葺・瓦葺等)	0.27	0.59

オ 壁の割合

ウ

0.27

÷

エ

0.52

=

オ

0.46